

## 職種の壁を飛び越える ～目標に向かって連携しよう

令和5年8月14日(月)流山市ケアセンターにて、「職種の壁を乗り越える～目標に向かって連携しよう」と題して、流山市内の医療・介護の専門職を対象に研修会を開催し36名の参加者がありました。

### 事例発表

令和5年度第2回介護と医療をつむぐ会では「職種の壁を飛び越える～目標に向かって連携しよう」と題し、退院後の多職種連携をテーマとした事例をもとに、それぞれの専門性を理解し、強みを活かした連携を図ることを目的にグループでどのような支援が必要か、どのようにかかわっていけばいいか意見交換をしてもらいました。総括では、「壁には、切り開くという意味を持つ字が含まれている。皆さんのもつ力で困難を切り開き、壁をのり越え、新しい景色を見てもらいたい」という言葉をいただきました。

「地域の多職種連携により早期に経口摂取可能となった事例」

グループワークでは、各班に支援目標、退院前の準備、退院後のサポート、連携について意見交換を行いました。事例の主治医の「医療介護の連携とは地域の多職種による協業であり、他職種協業によって患者様に最善の結果を出すことが私たちの使命」との言葉通り、本人に最善の結果をもたらすため多職種の様々な視点からの意見交換がなされました。多かった意見を掲載します。

- 支援目標を決めるにあたり、まず、本人、家族に障害を受け入れてもらったうえでそれぞれの意向を丁寧に聞き取り、どのような生活を送りたいのか聞き取ることから。無理のない短期、長期目標を定めることが大事。
- 退院前の準備に関しては、退院前カンファレンスには、今後関わる業種になるべく多く出席してもらい、本人のADLを確認し、その場で本人家族の意向を共有するほうが、環境整備を行いやす

い。そこには、経済状況を確認し、どの程度まで費用の負担ができるのか確認することも必要。退院後の在宅生活がイメージできないときは、最小限のサービスを提案し、状況に合わせ増やしていくほうが良い。家族が頑張りすぎないようにサポートすることも大切。

- 嚥下障害を抱えているので、内服内容(嚥下障害を起こしやすいものはないか、飲み込みは大丈夫か胃ろうの管理、嚥下の指導を医師と連携を取りながら行っていく。徐々に外に出るサービスを提案し、社会から孤立しないように働きかけていく。
- レストランに行ける状態になったら、事前に交通手段、店内動作の提案、嚥下に関する情報を事前に店に伝えてもらい、店側から不安要素があれば、解決に向けた提案もできれば。
- ケアマネとしてどのように動いていかなければならないか考えた

### アンケート抜粋

- ・発表のないほうがいろいろ情報交換が出来てよい
- ・本当の連携が当たり前な環境になるように
- ・職種を超え、いろいろな意見が聞けて良かった
- ・高齢者に限らず、誰もが住みやすい街であるためにどうすればいいのか話す機会を作ってもらいたい
- ・在宅支援側と病院側のそれぞれの視点から求めること、疑問の意見交換ができた
- ・入退院後のアセスメントの重要性を感じた

次回のつむぐ会は  
市民公開講座「流山市でおひとりさまになっても最期までご機嫌に過ごす！～備えについて語り合おう～」  
令和5年11月18日(土)14時から16時  
(受付13時半から)初石公民館 ホール  
住み慣れた自宅で最期まで過ごせるように今からできる「備え」についてパネルディスカッションを通して考えましょう。